

副産物情勢

1月17日 更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容	備 考
内 臓	1.国産牛	○ 11月の成牛と畜頭数は、109.5千頭(前年比100.6%)と前年並みとなった。 内訳を見ると、和牛:58.1千頭(前年比104.4%)、交雑牛:24.5千頭(同100.3%)、乳牛去勢:10.6千頭(同95.2%)となった。 ○ 12月の成牛と畜頭数は、速報値(12月31日まで集計)で92.1千頭(前年比94.5%)と前年を下回る見込みとなった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(12月25日公表)によると、12月の出荷頭数は乳用種が減少するものの、和牛および交雑種の増加が見込まれることから前年同月を上回ると予測し、1月は、交雑種の出荷頭数が増加するものの、和牛および乳用種の減少が見込まれることから、下回ると予測する。(12月 104.9千頭(前年比107.2%)、1月 83.2千頭(同97.3%)) 3か月平均(11月～1月)では、出荷頭数98.9千頭(前年比101.3%)、生産量31.8千㍏(同101.7%)と前年を上回る予測となっている。 ○ 需 給 動 向：赤物はタン・ホホ等の不足が継続しているものの、ハラミの動きがやや鈍化している。テールは季節商材だが引き合いは例年より強くない。レバーは不需要期なこともあり余剰感が強い。 白物は、需要期である小腸は期待ほどの荷動きがなく、市中在庫が積みあがっている。シマ腸の余剰感も強まっているが、一方で煮込み商材であるアキレスやメンブレンの荷動きは堅調。	1.東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg 価格改定年月日 牛内臓 豚内臓 令和3年4月 26日 25 5 令和3年10月 18日 35 7 令和4年2月7日 25 5 令和4年4月4日 35 7 令和4年8月8日 45 9 令和6年12月2日 48 9
	2.国産豚	○ 11月の全国豚と畜頭数は、1,410千頭と前年を下回った。(前年比95.1%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道102.8%、東北91.1%、関東93.0%、北陸甲信越92.6%、東海99.4%、近畿96.7%、中四国96.3%、九州・沖縄96.2% ○ 12月の全国と畜頭数は、1,406千頭(速報値12月31日まで集計、前年比96.2%)と前年を下回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年より1日少なく、1日当たりの平均と畜頭数は70,285頭(前年実績:73,097頭/日、前年差▲2,812頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;12月23日付け)によると、1月;1,414千頭(前年比100%)、2月;1,344千頭(同98%)、3月;1,457千頭(同106%)、4月:1,403千頭(同100%)、5月:1,342千頭(同99%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約100%と前年並みの見込み。 ○ 需 給 動 向：1月は前年並みの出荷頭数が予想されることから、発生量は堅調な推移を見込む。 赤物は、需要部位を中心に堅調推移であり、特にカシラ肉の引き合いが強い。 白物は、例年に比べ全体的に荷動きは多くないものの、業態により引き合いに差がある。ガツ・直腸の需要は引き続き堅調で推移。	※乳牛45円/kg ※豚正貫物 2.大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg 価格改定年月日 牛内臓 豚内臓 令和3年4月19日 25 3 令和3年10月 15日 35 4 令和4年2月1日 25 4 令和4年3月28日 35 4 令和4年8月1日 45 5 令和6年12月2日 48 5
	3.輸入牛	○ 11月の輸入通関実績は、全体で34.6千㍏と前年を上回った(前年比103.6%、前月比78.8%)。 内訳ではチルド:13.7千トン(前年比94.4%、前月比87.0%)、フローズン:21.0千㍏(前年比110.6%、前月比74.2%)となった。 輸入相手国別では、チルドは豪州、ニュージーランドが増加し、フローズンは、豪州、米国、メキシコが増加した。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドは、国内需要の低迷により低調に推移する中、米国产の減少が見込まれること等から、12月、1月ともに前年同月を下回ると予測し、フローズンについても輸入品在庫量が高水準であること等により低調に推移する中、米国产の減少等により、12月、1月ともに前年同月を下回ると予測する。 3か月平均でも、チルド、フローズンといずれも下回ると見込んでいる。 令和6年12月 合計:35.1千㍏(前年比97.3%)、チルド:14.7千㍏(同97.9%)、フローズン:20.4千㍏(同96.9%) 令和7年1月 合計:35.5千㍏(前年比82.1%)、チルド:14.3千㍏(同84.4%)、フローズン:21.2千㍏(同80.7%) ○ 輸入牛内臓実績(令和6年11月):牛腸(冷凍) 1,388.5㍏(前年比114.5%・前月比99.2%) 国別実績:米国1,056.3㍏、メキシコ170.5㍏、豪州93.9㍏、カナダ62.6㍏、他牛レバー(冷凍):40.6㍏(前年比54.1%・前月比39.4%) 国別実績:米国22.6㍏、メキシコ16.3㍏、豪州1.8㍏	3.東京市場原皮価格 ※交雑牛含む 単位:円/枚 価格改定年月日 牛原皮(和牛) 豚原皮 令和元年7月22日 700 10 令和2年3月16日 500 10 令和2年6月15日 100 10 令和2年7月20日 100 2 令和2年9月28日 10 2 令和3年5月24日 10 10 令和5年10月16日 10 2
原 皮	1.牛原皮	○ 輸 出 実 績 (令 和 6 年 11 月)：46,733枚(前年比108.9%、前月比105.3%) 国別実績:タイ42,088枚(前年比128.5%)、韓国2,975枚(同42.6%)、フィリピン1,670枚(同278.3%) 輸出平均価格(令和6年11月):2,654円/枚(前年差+196円、前月差+226円) ○ 輸 入 実 績 (令 和 6 年 11 月)：牛大判皮27,583枚(前年比138.1%、前月比118.5%)、ウェットブルー13,547枚※(同48.9%、同100.6%) ※4.4㎡/枚で計算 輸入平均価格(令和6年11月):牛大判皮7,848円/枚(前年差△584円、前月差△329円)、ウェットブルー9,124円/枚(同△970円、同+665円) ○ 海 外 情 勢：前月に比べ円安であった分、輸出価格は上昇したが、依然として世界的に低迷は続いている。タイ向けの割合が増加傾向(全体の約9割) ○ 国 内 情 勢：ホルス去勢以外の引き合いは弱く、それ以外は輸出に頼らざるをえない状況。	4.大阪市場原皮価格 ※交雑牛含む 単位:円/枚 価格改定年月日 牛原皮(和ヌキ) 豚原皮 令和元年8月15日 1,000 10 令和2年3月16日 800 10 令和2年6月22日 300 10 令和2年7月27日 300 2 令和2年9月28日 10 2 令和3年6月1日 10 10 令和5年10月23日 10 2
	2.豚原皮	○ 輸 出 実 績 (令 和 6 年 11 月)：1,038,332枚(前年比97.2%、前月比100.8%) 国別実績:タイ806,892枚(前年比94.4%)、カンボジア132,600枚(同82.8%)、ベトナム56,540枚(同226.0%)、韓国42,300枚(同149.5%) 輸出平均価格(令和6年11月):342円/枚(前年差△23円、前月差+2円) ○ 需 給 動 向：昨年春頃より需要回復への期待感から価格は上昇傾向にあったが、実際の需要が伴わず8月から下がり始め、10月に引き続きドル単価では過去最低水準 底値感はあるようだが、春頃までは安値が継続する見込み	
レンダリング	1.油脂等	○ 国産食用加工油脂向け価格(1月渡し)：牛脂145円/kg(前年差±0円、前月差±0円)、豚脂145円/kg(同△10円、同±0円) 牛脂は、大手ファストフードチェーンがフライドポテトの販促を実施したことに加え、カレールゥが需要期にあることから荷動きは改善してきている。 豚脂は、肉豚の生産コスト高により出荷日齢が早期化傾向にあることから発生量が抑えられている。ラーメン店向けの出荷も堅調であり、需給は引き締まり傾向。 ○ マレーシア産パーム油相場(12月)：216円/kg(前年差+70円、前月差+6円) 11月生産量は162万トン(前月比90.2%)、輸出量は148万トン(同85.3%)、月末在庫は183万トン(同97.4%)となった。 生産量が減産期であることに加え、バイオ燃料の需要が依然堅調であることから、今後も底堅い相場推移を見込む。 ○ 関 東 飼 料 用 油 脂 (12 月)：114円/kg(前年差△10円、前月差±0円) ○ 工 業 用 油 脂 (12 月)：95円/kg(前年差±0円、前月差±0円) ○ UCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格(12月)：123円～126円/kg程度(前年差±0円、前月差±0円)	5.食用加工油脂価格 単位:円/kg 価格改定年月日 牛脂 豚脂 令和4年4月1日 175 170 令和4年7月1日 195 190 令和5年1月1日 175 175 令和5年4月1日 165 175 令和5年7月1日 155 165 令和5年10月1日 145 155 令和6年7月1日 145 145